

ふくしまと韓国の架けはしプログラムⅡ —ふくかん農食品文化交流事業—（招へいプログラム） （対象国：韓国、テーマ：ふくかんの農食品文化交流）の記録

1. プログラム概要

大田(テジョン)、郡山(クンサン)、全州(チョンジュ)、益山(イクサン)などの農食品関係者、全州市孝子洞の地域姉妹提携交流関係者、その他の地域から先発された社会人 101 名が、2月20日から3月1日までの9泊10日の日程で来日し、「ふくかんの農食品文化交流を韓国に広く発信、交流の拡大と定着に向けて事業を進める」のもと、対日交流を深めました。

一行は東京都のほか福島県に7泊8日滞在し、福島の農食品に関するワークショップ、農家民泊、農業視察、食文化体験や視察、風評払拭のための関係者との意見交換・交流等を実施しました。プログラム中、各地域の特産物や伝統文化、日本の自然等に強い関心を示し、各々関心事項や体験について SNS を通じて積極的に対外発信を行いました。また、帰国前の成果報告の場では、訪日経験を生かした帰国後のアクションプラン(活動計画)について組ごとに発表を行いました。

【訪問地】（複数国の参加の場合に記載）

東京都、福島県福島市、二本松市、いわき市、会津若松市、北塩原村、下郷町、猪苗代他。

2. 日程

2月20日（月）

1・3組入国（成田国際空港）【視察】都内にてお台場、秋葉原

2月21日（火）

1・3組 【視察】浅草・仲見世

2組入国（成田国際空港）

1・2・3組 【視察】都内にてお台場、秋葉原、上野博物館（もれた施設を訪問）

3グループに分かれ、【見学】都内福島・宮城・岩手のアンテナショップなど。

2月22日（水）

3つの組に分かれ、

1組は東京から福島へ移動後、福島郷土料理体験

【体験内容】福島産食材の人参を使った「いか人参」という郷土料理を作る
福島の食品が安全であることを知っていただく。

【交流・意見交換】農民連の主婦ら20人

2組は福島吾妻地区の人と交流

3組は日光市内見学

それぞれ終了後5時以降、福島市吾妻学習センターにて歓迎会

【歓迎会】福島のなし農家さんによる「フルーツ王国福島」と題してプレゼン
韓国の日本の合唱披露、福島大学生による「よさこい」披露、

三味線、日本伝統舞踊披露。

吾妻地域のお母さんグループによる、福島産食材でもてなす食事会を開く。

2月23日(木)【福島大学での2つのプレゼン後のワークショップ】

プレゼン①福島大学、林薫平先生「福島農業人の挑戦」

プレゼン②JA ふくしま未来、高野厨優花さん「ふくしまの農業の安全をうったえる」

【体験】雅楽、和太鼓、茶道、三味線を組ごとに交替し体験

2月24日(金)【体験】いわきワンダーファームにてイチゴやトマト狩りを体験

いわきデイクルーズ、フラダンス見学

【意見交換会】いわき市民との交流会：いわきの安全性を訴える。

2月25日(土)～27日(月)

【見学】会津地区で、大内宿、鶴ヶ城、酒蔵、野口英世記念館。

【体験】そば打ち、座禅、赤べこ絵付け。

【視察】JA ころも直販所（吾妻、矢野目、黒岩）、

食品検査場（放射能モニタリングセンター）。

2月28日(火) 報告会（印象深かったこと、学んだこと、アクションプラン）

3月1日(水) 成田国際空港より出国

3. プログラム記録写真

	
2月23日) プレゼン「ふくしま農業人の挑戦」(福島大学)	2月24日) いわき市民との交流会「いわきの安全性をうったえる」
2월 23일) 프레젠테이션 "후쿠시마 농업인의 도전"	2월 24일) 이와키시민과의 교류회 "이와키 안전성을 보고"

	
<p>2月27日) 着物体験後、着付けしていただいた地元の皆さんと。</p>	<p>2月24日) いわきのワンダーファームにて、イチゴ狩り体験</p>
<p>2월 27 일) 기모조체험후 입혀주신 지역주민분들과.</p>	<p>2월 24 일)이와키 완다팜에서 딸기수확체험</p>
	
<p>2月22日) 農民連の主婦らと郷土料理体験後の懇談</p>	<p>2月28日) 報告会</p>
<p>2월 22 일)농민연합회 주부들과 향토요릿체험후 담화</p>	<p>2월 28 일) 보고회</p>

4. 参加者の感想（抜粋）

（記載例）

◆ 韓国 社会人

○福島に1週間滞在と聞いて家族が猛反対した。でも、昨年福島に来たことがある人から「まったく問題ない」といわれたの信じて来てみてよかった。日本だけではなく、福島がとても好きになった。放射能汚染で暮らせないといって反対した娘たちを連れてきたい。（農業関係者）

◆ 韓国 社会人

○このプログラムで私たちは、いかに福島の皆さんに失礼なことをしていたかわかることができ、これまでの自分の言動が恥ずかしくなった。これからは福島の広報大使となって、福島の安全を伝え、福島の皆さんの辛さを少しでも減らすように協力したい。

(地域姉妹提携組)

◆ 韓国 社会人

○日本はいやな国だと思っていた。しかし、先進的な技術もたくさん持っている国であり、特に農業は優れていると思っていたことも確かにあった。今回の事業の参加したことで、たくさんの日本人に出会い、やさしさに触れ、感動することが多かった。私たちと似ていて、隣人である私たちは仲良くするために、このような民間交流が非常に友好的であることを知った。私はこれから福島ファンとなることを約束した。まずは、私の周辺の人から福島のことを伝えていくことにしたい。(交流拡大地域、大邱市民)

5. 受入れ側の感想

◆ 地元のボランティア

○福島での交流会に参加して、韓国の農業関係のみなさんと朗らかですぐに親しくなりまあした。福島の農業にも関心を持ってくれて、言葉は通じなくても、日ごとに放射能に対する誤解が解けていることを感じました。私も韓国に行ってみたいです。韓国の農業や食品に興味を持つようになりました。(吾妻地域住民)

◆ 吾妻支所関係者

○元気で明るい韓国の皆さんに出会って本当によかった。福島の皆さんと交流できるようになったら、地元の農家の皆さんにも新しい世界が広がることになるかもしれないと思いました。支所としても、かかわることができてうれしいです。これから、吾妻地区のみなさんにふくかんさんの活動を知って頂けるよう、支所としても協力していきたいです。機会があれば韓国に行ってみたいです。

◆ ふくかん事務局関係者

○福島の風評被害払拭に少しでも役に立ちたいと思い参加した。ところが、人とひととの交流がどんどん輪が広がるようになっていくのを目の当たりにして、感動するばかりです。今度は、韓国の全域に福島ファンを作っていこうとしている民間グループの活動に微力だが協力していきたいです。

6. 参加者の対外発信

	
<p>2月22日) 福島での歓迎会についての発信 ・福島市の吾妻地域の住民の皆さんが歓迎会を開いてくださり、福島市民合唱団の皆さんとコラボした。また、伝統芸を披露していただくなど、心から私たち全州市民を向かい入れてくださった。</p>	<p>2月27日) 農協放射能モニタリングセンターについて発信 福島ではすべての食品に対して放射能測定を徹底的に行っていることを知った。検査システムが科学的であること、市民意識がしっかりしていることを発信した。</p>
<p>2월 22일) 후쿠시마 환영회에 대해 발신 ・후쿠시마시의 아즈마지역 주민들이 환영회를 열어주고 후쿠시마시민합창단과 코라보공연했다. 또한 전통예능을 선보이고 성심어린 환영을 해주었다.</p>	<p>2월 27일) 농협방사능 모니터링센터에 대해 발신 후쿠시마에서는 모든 식품을 방사능측정을 철저하게 하고 있다는 것을 알게됐다. 검사시스템이 과학적이고 시민의식도 확실하다는 것을 발신했다.</p>

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

	
<p>2月28日) アクション・プランの発表1 福島での農産物に対する放射能検査を徹底していることを確認、帰国後は福島を安全に伝える活動をする。</p>	<p>2月28日) アクション・プランの発表2 福島でのゴルフコンペを積極的に考え、今年中に仲間とゴルフに来る。福島が元気であることを伝え、地域同士の交流に繋ぎたい。</p>
<p>2월 28일) 액션플랜 발표 1 후쿠시마에서 농산물에 대한 방사능검사를 철저히 하고 있다는 것을 확인해서 귀국해서는 후쿠시마의 안전을 많은 사람들에게 전하는 활동을 하겠다.</p>	<p>2월 28일) 액션플랜 발표 2 후쿠시마에서 골프콘페를 적극적으로 생각하겠다. 올해중에 친지들과 골프를 하러 오려고 한다. 그리고 후쿠시마가 평온하다는 것을 전하고 지역교류에 연결하고자 한다.</p>